

第3課 生と死、そして人生

人は生まれ、生き、そして必ず死ぬ。これを「一生」と言うが、それぞれの人の一生を「人生」と呼ぶ。人は誰でも幸福な人生を送りたいと願っている。それまでいろいろ大変なことがあっても、最後が幸せであれば、その人生は大成功だと信じたい。

介護士の仕事は、利用者の人生最後の数年間を共に生きること。その間その方の幸せのために働くわけだが、その方の人生から学ぶこともたくさんあるはず。そのおかげで、介護士は人生の達人になれるのだ。こんな素晴らしい仕事は他にはないだろう。



第1セクション 人生の目的と目標

「目的」と「目標」は同じような意味に思えますが、正確に言えば違います。

「目的」とは、目指すことがらのことです。一方、「目標」とは、目的を表す具体的な目印のことです。例えば、寝たきりの利用者さんの「目的」が「普通に暮らすこと」であれば、「目標」は、「起き上がること」や「歩くこと」などです。大切なことは、「目的」がなければ、「目標」が決まらないし、逆に、「目標」がなければ「目的」も達せないということです。

それでは、あなたの人生目的は何ですか。幸せになること、愛されること？それとも、「どうせ最後は死ぬのだから、目的なんか考えても意味がない」と考えますか？人はそれぞれ価値観が違いますから、様々な考えがあって当然です。

でも、介護士はしっかりと人生目的を考えるべきです。なぜなら、介護士が自分の人生目的に関心がないと、利用者の人生目的にも関心を持たなくなるからです。そうすると、間違った「目的」に基づいた、間違った「目標」を追求する介護になってしまいます。例えば、「静かに人生の最後を迎えたい」という利用者がいるとします。もし、介護士が「いつも一人で寂しそうだから、とにかくレクリエーションに参加してもらおう」と目標を立てたりすると、どうでしょうか。きつとうまくいきませんね。

介護士は利用者の人生目的を真剣に考え、それに基づいた適切な目標を設定して介護を行う必要があるのです。これは介護の大原則です。

 **考えよう**

1) 『MANGA 介護の日本語初級』のサダさんの人生目的と目標もくひょうとは何だった
と思いますか。

2) 本文に「静しずかに人生の最後さいごを迎えたい」という目的を持つ利用者のケースが
ありますが、この場合ばあいの適切な目標てきせつは何だと思いますか。

ケース

3) あなたの人生目的と目標を話してください。

第2セクション 自分らしく、ありのままに

人の生活様式ようしきを「ライフスタイル」と言います。例えば、日本人なら、木の家に住むとか、和食わしょくを食べるとか、お風呂ふろに入るとか、和服わふくを着るとか。

また、人の生きる道筋みちすじを「ライフコース」と言います。同じライフスタイルでも人それぞれ違った人生ちがのライフコースをたどります。

そして、人が一生いっしょうの中で発達はったつしていく過程かていを「ライフサイクル」と言います。サイクルとは「一回り」とか「四季しき」という意味で、私達は人生を春夏秋冬にたとえることがあります。

有名な心理学者ゆうめいのエリクソンはライフサイクルを8段階だんかいに分け、最後の段階である「老年期ろうねんき」での課題かだいは、それまでの人生をありのままに受け入れることう（統合とうごう）だと考えました。もし、受け入れることができないと、人は絶望ぜつぼうしてしまうのだと。どんなライフスタイルでも、どんなライフコースでも、最後は自分の人生をありのままに受け入れることうったの大切さをエリクソンは訴えたのです。

ビートルズの ” Let It Be ” やディズニーの ” Let It Go ” は「ありのままに」ということですね。そう、人は自分らしく、ありのままに生きたいと願っています。そして、最後はありのまましに死にたいと。

介護士は利用者の老年期を共に生きます。だから、利用者が「自分らしく、ありのまま」に生きて死んでいくのに寄り添よそうのが仕事なのです。



 **考えよう**

1) 本文に「自分らしく」とありますが、あなたの「自分らしさ」とは何ですか。

2) あなたは自分が死ぬ^し時^{とき}に、どのような死^{かた}に方が「自分らしい」と想像^{そうぞう}しますか。

想像する
(そうぞうす)

3) 「自分らしさ」は必要なものですか。なくてもいいと思いますか。どうしてそう思いますか。

4) 「ピンピンコロリ」「ピンピンポックリ」という^{ことば}言葉があります。どういう意味^{しら}か調べてみましょう。

第3セクション 安楽死 事例研究

川上さん（仮名 75歳）はALS患者です。この病気は原因不明の難病で、運動の筋肉が動かなくなっていくます。最初は手足の筋力が弱くなり、最後は呼吸筋もマヒして、人工呼吸器を使わなければなりません。川上さんは病気の発症後もう5年が過ぎて、今では寝たきりの状態です。もちろん、話すこともできません。かすかな目の動きでパソコンを操作して、意思を伝えようとしています。現代の医学ではこの病気を治すことは不可能です。

川上さんの介護者は主に奥さんですが、夜だけはヘルパーさんに来てもらっています。それでも、70歳になった奥さんの疲労はとて大きく、このままでは奥さんの体が心配です。残念ながら彼らには子供がいません。

この頃、川上さんの病気はますます悪くなってきました。彼は時々悲しそうな目で奥さんを見ています。そんなある日、彼は「もう限界だ。これ以上長生きはしたくない。もう人工呼吸器を外してくれ」と目を動かしてパソコンに入力しました。それを見た奥さんは驚いて、「あなた、そんな悲しいことは言わないで。私なら大丈夫」と優しく言い返しました。

こんな日が何日も続いたので、奥さんは人工呼吸器を外せないかと主治医に相談しましたが、医師からは拒否されました。しかし、数日後、奥さんはご主人の強い求めを断り切れず、とうとう人工呼吸器を外したので、川上さんはすぐに亡くなりました。後日、奥さんは自殺を助けた罪で訴えられました。



 **考えよう**

1) 「もう^{げんかい}限界だ。これ以上^{いじょう}長生きはしたくない。もう人工呼吸器^{じんこうこきゅうき}を外してくれ」と言った川上^{かわかみ}さんの本音^{ほんね}は何だったと思いますか。

本音
(ほん

2) どうして奥^{おく}さんは最後には人工呼吸器を外したのでしょうか。

3) 奥^{おく}さんは有罪^{ゆうざい}になると思いますか。

有罪
(ゆうざい

4) 「安楽死^{あんらく}」は「尊厳死^{そんげん}」とも言います。「安楽」「尊厳」の意味を調べて、2つの言葉がどう違うか考えてみましょう。

尊厳死
(そんげん

5) 『MANGA 介護の日本語初級下巻』の第25話にも今回のテーマと同じ問題^{だい}がありますが、それはどんなことか説明してください。

テーマ

第4セクション 人生の物語^{ものがたり}

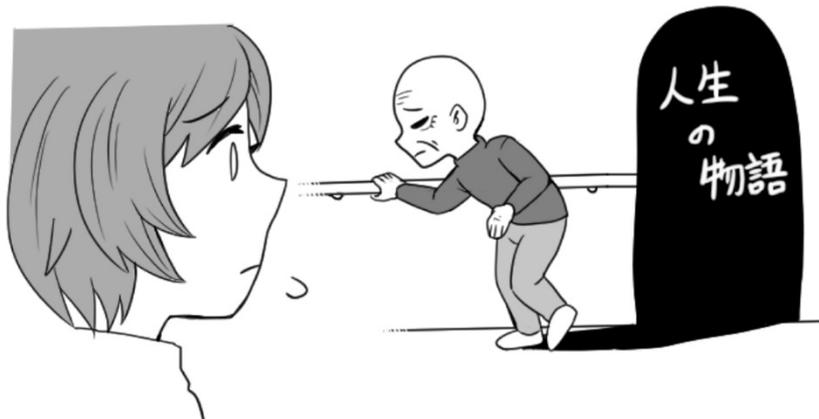
どんな人にも人生の物語があります。今日は『MANGA 介護の日本語初級』の漫画の主人公である佐藤サダさんの人生を物語りましょう。

「女性、高知県生まれ。家族は父、母と弟。父は太平洋戦争で戦死。働くため、地元の高校を卒業後上京。その後、家族もサダを頼って上京し、同居。23歳で結婚し、すぐに女の子を出産。しかし、すぐに離婚し、3年後子供を家族に預けて家を出る。その後ずっと独身生活。仕事がうまくいかず、ギャンブルにはまる。いつからか、精神病になる。65歳を超えてから痴呆が進む。そして、独居生活が不可能となり、70歳の時に特別養護老人ホームに入所。現在、身体的には問題ないが、アルツハイマー病と統合失調症を患っている。」

介護とは利用者の生活全体を支援する仕事ですが、現在の生活はその方の人生の一部でしかありません。その方にはずっと長い過去がありました。人は過去から現在、そして未来へと生きていきます。ですから、現在の生活を正しくアセスメントするには、その方の過去、つまり生活歴を知る必要があるのです。

佐藤サダさんは漫画の主人公ですが、モデルとなった実在の人物がいます。その方はその方自身の人生における主人公です。その方だけの人生物語があります。介護士はその物語に共感しながら、介護をしなくてはなりません。それは、興味本位で他人の人生を覗くことではありません。もし自分がその方だとしたら、どんな人生だったかと身震いしながら想像することです。

そして、実は介護の仕事そのものが介護士自身の人生物語の一部であること、つまり、利用者の人生物語と介護士の人生物語とが共鳴していることを忘れないでください。



 **考えよう**

1) 本文に「人は過去^{かこ}から現在^{げんざい}、そして未来^{みらい}へと生きていきます」とありますが、
あなたは本当に^{ほんとう}そう思いますか。

2) プライバシー^{ほご}保護^{かんてん}の観点^{かんてん}から、本文中のサダさんに関する文に問題はないで
しょうか。また、どうすれば問題をなくすことができるでしょうか。

プライバシー保護
(プライバシーほご)
観点 (かんてん)